

# 乳児院における「家庭的養育」実践に関する調査

## —子ども・職員・関係機関—

Study on family-based care practices at infant homes

—The children, the caregivers, and building relationships between them—

池田 りな<sup>1</sup>, 坪井 瞳<sup>2</sup>, 土屋 由<sup>3</sup>, 宮本 桃英<sup>1</sup>

Rina Ikeda<sup>1</sup>, Hitomi Tsuboi<sup>2</sup>, Yu Tsuchiya<sup>3</sup>, and Momoe Miyamoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学家政学部児童学科, <sup>2</sup>東京成徳大学子ども学部子ども学科,

<sup>3</sup>十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科

キーワード：乳児院, 家庭的養育, 実態調査

Key words : Infants Home, Family-based care, Fact-finding survey

### 1. 研究目的

わが国においては家庭における養育環境が子どもの育成にとって不適切であるためにその健全育成に支障をきたすというニュースが日常的に取り上げられている状況にある。家庭での養育が子どもにとって最善の環境とは言い難い状況が生じる背景には、貧困および経済的格差が取り上げられる場合もあるが、経済が養育環境の主要因と捉えることは必ずしも適切ではなく、子どもの養育に携わる大人が構成する社会全体の状況が少子化や高齢社会化の影響からか「子どもの育ちとその環境」を第一義として捉える観点が弱い傾向もその一因としてあることを忘れてはならないだろう。

少子化の進行に歯止めがかからない国情では、社会的弱者である乳幼児期の子どもの健全な発達をどのように保障していくのか、子どもが健全に育つとはどういうことなのか、について根本的に考えたうえで対策に乗り出す姿勢が求められているといえよう。

いっぽう乳児院という施設は、第二次世界大戦により生じた戦災孤児や棄児を養育することを社会的役割とした福祉施設であるが、80年近くの年月を経た現在において乳児院に求められるその役割は大きく変容してきている。従来の役割である、肉親がおらず家庭を持たない乳幼児の社会的養育という特質に加えて、実父母も家庭もあるもののその養育環境が不適切であると判断された乳幼児を対象とする養育とその発達の健全化、そして家族の再統合を目的とした養育者への支援、また地域子育て支援など、その役割は多様化してきている。

それとともに乳児院で働く職員にはより高度な専門性が要求されることになる。さらに平成28年の児童福祉法改正、平成29年の「新しい社会養育ビジョン」においては「家庭的養育」および施設養育における「家庭的養育」の重要性とその必要性が示された。また、OECD2006、平成18年教育基本法改正などにおいても乳幼児期に質の高い保育・教育を受けることがその後の人生の基盤となることなど、生涯発達における乳幼児期の養育環境の重要性が国際的・国内的にも謳われている。

すなわち社会的養護下の乳幼児期の実勢の質が改めて問われている時代であることとらえることができる。しかし、筆者らが学生の実習巡回指導などにより実際に耳にする乳児院の現状においては、職員の人手不足、必ずしも低くないといわれる離職率の問題、そして社会情勢から乳児院に次々と求められる多様な役割への対応の難しさなどが話題にあがることも多い。また乳児院において子どもの生活に深く関与するのは養育担当者であるが、その労働内容の実態や担当職員の利用児への思いなどについては利用児の個人情報守秘義務の観点からも詳細の多くは公表されにくく、同じ児童福祉施設である保育所など通所施設と比較しても、それらは広く社会的に知られていないことが現状である。そのような状況を踏まえ、各施設におけるグッド・プラクティスや各施設及び職員の抱える課題・困難などに関して実地調査を通して明らかにすることが必要であると考えられる。

### (1) 本研究の目的

本研究においては、乳児院における「家庭的養育」の実践に関する調査を行い、乳児院における養育および職員の職務等に関する実態を明らかにし、職員の困難感や課題となる事項を探ることを目的とする。

具体的には以下3点の観点を調査項目として挙げる。それぞれのなかに具体的な質問項目を設定し、回答方法には選択技法よりも自由記述形式を多く用いることで、アンケート調査ではあるが、対象者の回答からできる限りその考えや思いを具体的に把握することに努めることとした。この理由として、本調査は当初、面接法によるインタビュー調査を計画しており、COVID-19の終息がみられなかったことにより、止む無く質問紙法に変更した経緯を持つことによる。

### (2) 調査の観点

本研究では乳児院の社会的役割の転換期における乳児院養育の質を「入所前(入所時)―入所中―(退所時)退所後」という、乳幼児の生活の時間と空間の中で総合的観点から整理し、今後の乳児院養育の在り方を検討するため、以下の3観点を立てた。

調査観点の一つ目としては「乳児院を取り巻く関係機関との連携および退所後の支援」に置く。現在、乳児院の養育はさまざまな関係諸機関との連携のなかでその主要な事項が判断され、対象児の処遇が決められている。乳児院の独自性はあるものの、社会的役割を担う一機能として他機関との連携の中で果たすべき役割は多く、乳児院という一施設のみで決定され実施されることは多くない。その実態の中で乳児院の有用性も困難性も生じていることが推測され、本調査ではその実情を整理する。調査観点二つ目は「子どもと担当職員との関係性構築」に置く。社会情勢は「家庭的養育」の重要性を掲げているが、実際に養育を行っているのは各乳児院であり、そこにはさまざまな生活様式や養育環境の工夫が存在する。また「家庭的養育」の解釈もさまざまであることが予測される。すべての乳児院が一律な養育方法を実践しているというよりはむしろ、各施設で築き上げてきた経験や条件を基盤として実際の養育が展開していると推察され、各乳児院における独自性や担当職員が重要視する事項および困難感の所在などについて明らかとする。調査観点三つ目は「乳児院における職員の職務内容について」である。今回の調査においては、乳児院において実際に養育を担当する職員に焦点をあて、職務内容の実態および労働形態の実態をより明らかにする。当事者の視点から課題を整理し、乳児院における養育の

在りようを総合的に提言するところに本研究の独自性を見出したい。

## 2. 研究実施内容

### (1) 質問項目の作成

COVID-19の終息が見られなかったことを受けて当初の計画である面接調査法を質問紙法に変更し調査を実施した。

質問紙の構成については上述3観点を軸としてA票、B票の2部構成で作成した。

#### 1) A票

A票には観点1「乳児院と関係諸機関との連携及び入所児の退所後の支援」に関する質問項目を構成した。

主たる項目はI. 乳児院の職員形態・養育方針などについて、II. 他機関との連携及び退所後の連携について、を構成した。I. 乳児院の職員形態・養育方針などについては1.入所児数、及び職員の内訳、2. 取り入れている養育の体制について、3. 施設の養育理念・方針についての質問を設定した。またII. 他機関との連携及び退所後の連携については1. 児童相談所から乳児院への措置依頼が来る際、児童相談所からお子さんの状況について文書での引き継ぎ(ケース記録など)、2. 児童相談所から乳児院への措置依頼が来た際、定員超過以外の事情で乳児院からお断りをするにはあるか、ある際にはその事情について、3. お子さんが乳児院に措置中、乳児院から児童相談所に連絡を取るにはあるか、ある際にはどのような状況の際に連絡を取るのか、4. お子さんが乳児院に措置中、児童相談所から乳児院に連絡をもらうにはあるか、ある際にはどのような状況の際に連絡をもらうのか、5. 乳児院への在所が2歳児以上も続く例はあるか、ある際には、年齢とその理由について、6. お子さんの措置変更の際して、乳児院の意見が反映されるにはあるか、その状況について、7. ここ1年程の代表的な措置変更先について、8. 措置変更後、お子さんとの連絡や状況把握は行っているか、行っている場合のその方法について、行っていない場合の理由について、9. 措置変更の際の課題、10. 措置変更決定時に、予め子どもにそのことをどのように伝えるのか、11. 措置変更受け入れ施設への事前訪問の実施の有無などについて、12. 措置変更受け入れ施設への事後訪問の有無について、13. これまでに保育所や幼稚園へ就園させたことはあるか、ある場合の状況について、14. 障害をもつまたはその疑いのあるお子さんの処遇について、15. 児童相談所以外でかわりのある外部の他機関はありますか、16. 児童相談所との連携

における困難や課題について、17. 児童相談所以外の他機関との連携における困難や課題について、18. 家庭復帰または措置変更をする際に担当職員にはどのような業務があるのか(乳児院でのそれまでの様子をどの程度伝えるのか)、19. 家庭復帰または措置変更について課題と感じていること、の計 22 問を設定した。

2) B 票

B 票には観点 2「乳児院生活における入所児と養育担当職員との関係性」および観点 3「乳児院における職員の職務内容」に関する質問項目を構成した。主な項目はI. お子さんの生活状況について、II. 養育担当職員としての勤務状況について、III. 養育担当者としての担当児に関する職務内容、IV. 家庭的処遇についての 4 構成とした。Iにおける質問項目は、1. 養育を担当する職員に対して(①小規模グループケアで養育している場合・②小規模グループケアではない方法で養育している場合)、2. あなたが養育する子どものデイリープログラムについてである。IIにおける質問項目は、1. あなたの「ある一日」の勤務体制を、出勤時間から引き継ぎ時間、退勤まで、2. 養育担当者としてのあなたの「早番・日勤・遅番・夜勤」の時の職務内容について、3. 養育担当者間の勤務交代時における配慮事項等についてである。IIIにおける質問項目は、1. 現在の担当時の養育について、日ごろ関係性構築のために配慮しているのはどのようなことか、2. 現在の担当児との関係性構築について、あなたが日ごろ難しく感じることはどのようなことか、3. ご自身の休日に、担当児・又は養育者とともに買い物に外出するなど、勤務時間外で行動を共にする機会はあるかである、4. 養育について他の職員との話し合いは、どのようなものがあるか、カンファレンス、一人一人の自立支援計画の作成や振り返り、計画の修正などに要する時間について、5. 担当時児の家庭復帰又は措置変更に際して、あなたが担当児にむけてしていることはあるか、6. 退所した児童が、その後、乳児院と関わる機会はあるかについてである。IVにおける質問項目は、1. 養育担当者として、担当児の生活が「家庭的」だと感じるのはどのようなところか、2. 養育担当者として、担当児たちの生活を「家庭的養育」に近づけることが難しく思うところはどうなところか、3. 養育担当者として、家庭的養育を保障するために、今後、改善していくことを望むところについて、で計 14 問を設定した。

(2) 質問調査の実施

調査対象は全国乳児福祉協議会(全乳協)の会員である全国の乳児院 145 施設で、2022 年 11 月に郵

送にて送付し、回答締め切りを 12 月下旬とした。回答は 68 施設で回答率は 46.9%であった。以下に送付した質問紙 A 票及び B 票を示す。

【A 票 1 枚目】

乳児院における「家庭的養育」の実践に関する調査 質問紙 A

乳児院 養育の目標：  
 わが国における社会的養育の趣向は、代替養育を担う乳児院の担い手である乳児院に対して急激な組織変更に求められている状況にあります。  
 本調査は、乳児院における家庭的養育の質的向上のための調査です。今後、他の乳児院への調査をおこなうための予備的な調査となります。  
 以下、ご自身が担当する業務に直接関係する質問項目について、可能な範囲でご記入ください。また、答えたくない項目のご回答はしていただくことなく結構です。なお、調査の結果は研究目的のために使用され、データが外部に流出しないよう、調査の結果からデータの集計・区分まで厳重に取扱いされます。  
 本調査に対するご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

研究者代表：池田りな(大東女子大学)

この質問紙 A は施設長・管理職のかた 1 名がお答えください

I. 乳児院の職員形態・運営方針などについて

乳児院全体についておたずねしています。

1. 入所児数、および職員の内訳を教えてください( ( ) 内に数字記入) 回答時基準

・子どもの入所児数：( ) 人  
 0, 1, 2 歳児 ( ) 人 3 歳以上 ( ) 人

・職員数：( ) 人  
 職種別：施設長 ( ) 人  
 事務員 ( ) 人  
 医師 ( ) 人【嘱託医を含む】  
 看護師 ( ) 人  
 児童指導員 ( ) 人  
 保育士 ( ) 人  
 栄養士 ( ) 人  
 調理員等 ( ) 人  
 個別対応職員 ( ) 人  
 心理療法担当職員 ( ) 人  
 家庭支援専門相談員 ( ) 人

その他 ( ) 人(職種名： )  
 非常勤職員 ( ) 人(職種名： )

【A 票 2 枚目】

2. 取り入れている養育の体制について(当てはまるものに○、複数回答可)

① 担当養育制  
 ② 小規模グループケア

3. 施設の教育理念・方針についてご回答ください。概略で結構です。(自由記述)

II. 他機関との連携及び退所後の連携について

1. 児童相談所から乳児院への措置依頼が来る際、児童相談所からお子さんの状況について文書での引継ぎ(ケース記録など)はありますか。(当てはまるものに○)

① ある  
 ② まるまる(ある時とない時がある)  
 ③ ない

2. 児童相談所から乳児院への措置依頼が来た際、定員超過以外の事情で乳児院からお断りをする場合がありますか。ある際には、その事情についてお教えてください。(当てはまるものに○)

① ある(その事情について簡単に教えてください)  
 ② ない

【入所中の情報共有について】

3. お子さんが乳児院に措置中、乳児院から児童相談所に連絡を取りますか。ある際には、どのような状況の際に連絡を取るか教えてください。(当てはまるものに○、および自由記述)

① ある(連絡を取る状況について簡単に教えてください)  
 ② ない

## 【A 票 3 枚目】

4. お子さんが乳児院に措置中、児童相談所から乳児院に連絡をもらうことはありますか。ある際には、どのような状況の際に連絡をもらうのか教えてください。（あてはまるものに○、および自由記述）

① ある  
（連絡をもらう状況について簡単に教えてください：）

② ない

【措置変更について】

5. また、乳児院への在所が2歳児以降も続く例はありますか。ある際には、年齢とその理由についてお教えてください。（あてはまるものに○、および自由記述）

① ある  
（代表的な理由を教えてください：）

② ない

6. お子さんの措置変更の際に、乳児院の意見が反映されることはありますか。その状況についてお教えてください。（あてはまるものに○、および自由記述）

① ある  
（どのような場合に意見を求められるか教えてください：）

② ない

7. ここ1年程の代表的な措置変更先についてお教えてください。（自由記述）

[ ]

## 【A 票 5 枚目】

【他機関とのかわりについて】

13. これまでに保育所や幼稚園へ就園させたことはありますか。ある際には、その状況についてお教えてください。（あてはまるものに○、および自由記述）

① ある（状況について教えてください：）

② ない

14. 障害を持つ、またはその疑いのあるお子さんの処遇についてお教えてください。（自由記述）

[ ]

15. 児童相談所以外でかわりのある外部の他機関はありますか。ある際には、その機関名をお教えてください。（自由記述）

[ ]

【他機関とのかわりにおける困難や課題について】

16. 児童相談所との連携において、困難や課題があればお教えてください。（自由記述）

[ ]

## 【A 票 4 枚目】

8. 措置変更後、お子さんとの連絡や状況把握は行っていないでしょうか。行っているようでしたら、その方法についてお教えてください。行っていないようでしたら、その理由についてお教えてください。（あてはまるものに○、および自由記述）

① 行っている  
（代表的な方法を教えてください：）

② 行っていない  
（理由を教えてください：）

9. 措置変更の際の課題があればお教えてください。（自由記述）

[ ]

【措置変更に伴う子どものケア方法について】

10. 措置変更決定時に、予め子どもにそのことをどのように伝えるのでしょうか。（自由記述）

[ ]

11. 措置変更受け入れ施設への事前訪問の実施の有無などについてお教えてください。（あてはまるものに○）

① 事前訪問を行っている

② 事前訪問を行っていない

12. 措置変更受け入れ施設への事後訪問の有無についてお教えてください。（あてはまるものに○）

① 事後訪問を行っている

② 事後訪問を行っていない

## 【A 票 6 枚目】

17. 児童相談所以外の他機関との連携において、困難や課題があればお教えてください。（自由記述）

[ ]

【家庭復帰・措置変更の子どもへのケアについて】

18. 家庭復帰または措置変更をする際に、担当職員にはどのような業務があるのでしょうか（乳児院でのこれまでの様子をどの程度伝えるのでしょうか等）お教えてください。（自由記述）

[ ]

19. 家庭復帰または措置変更について、課題と感じていることがあればお教えてください。（自由記述）

[ ]

■ 関係 A は以上です。ありがとうございました。



【B票1枚目】

乳児院における「家庭的養育」の実践に関する調査 質問紙 B

乳児院 職員の皆様： 貴院における社会的養育の現状は、代官養育を必要とする乳幼児養育の担い手である乳児院に対して、特に急務的な対応変更が求められている状況にあります。本調査は、乳児院における家庭的養育の質的向上のための調査であり、今後の乳児院への調査をおこなうための予備的な調査となります。以下、ご自身が担当する業務に直接関係する質問項目について、可能な範囲でご記入ください。また、答えたくない項目へのご回答はしていただく必要はありません。なお、調査の結果は研究目的のみに使用され、データが外部に流出しないようご配慮のうえからデータの取扱いをさせていただきます。本調査に対するご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

研究者代表： 巻田りな（大妻女子大学）

この質問紙Bは、お子さんの養育を担当する職員のかた がご回答ください。  
( )にご記入、また該当項目に○、および記述をお願いします。

I. お子さんの生活状況について

1. 養育を担当する職員のかたにおたずねします。( ①または②のどちらかを選択してご記入ください)

①小規模グループケアで養育している場合。

あなたのユニットの職員数： ( )名	ユニット内の子どもの年齢別人数：
あなたの職種：	0歳児：( )名
( )	1歳児：( )名
あなたの担当児の年齢 ( )歳	2歳児：( )名
男児 ・ 女児 (○をする)	3歳児：( )名

②小規模グループケアではない方法で養育している場合。

あなたの職種：	養育する子どもの年齢別人数：
( )	0歳児：( )名
担当児： いる ・ いない (○をする)	1歳児：( )名
↓	2歳児：( )名
担当児の年齢 ( )歳	3歳児：( )名
↓	
男児 ・ 女児 (○をする)	

【B票3枚目】

II. 養育担当職員としての勤務状況について

1. あなたの「ある一日」の勤務体制を、出勤時間から引き継ぎ時間、退勤までご記入ください。

時間	職務内容	時間	職務内容
01	出勤	01	
02		02	
03		03	
04		04	
05		05	
06		06	
07		07	
08		08	
09		09	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	
16		16	
17		17	
18		18	
19		19	
20		20	
21		21	
22		22	
23		23	
24		24	退勤

【B票2枚目】

2. あなたが養育する子どものデイリープログラムを教えてください。(資料でご提示いただいても結構です)

「子どものデイリープログラム表」

時間	起床～午前の活動	時間	昼食～夕食	時間	夕食後～就寝
01		01		01	
02		02		02	
03		03		03	
04		04		04	
05		05		05	
06		06		06	
07		07		07	
08		08		08	
09		09		09	
10		10		10	
11		11		11	
12		12		12	
13		13		13	
14		14		14	
15		15		15	
16		16		16	
17		17		17	
18		18		18	
19		19		19	
20		20		20	
21		21		21	
22		22		22	
23		23		23	
24		24		24	

【B票4枚目】

2. 養育担当者としてのあなたの「早番・日勤・遅番・夜勤」の時の職務内容について

職務内容 (例：子どもの援助・引継ぎ・面談対応・事務仕事・環境整備・ミーティング・その他)

時	A (早番の場合)	B ( )	C (日勤の場合)	D ( )	E ( )	F (夜勤の場合)
0時	担当者の職務内容	担当者の職務内容	担当者の職務内容	担当者の職務内容	担当者の職務内容	担当者の職務内容
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						

3. 養育担当者間の勤務交代時における配慮事項等についてお聞かせください。(自由記述)

## 【B票5枚目】

- III 養育担当者としての担当児に関する職務内容について
1. 現在の担当児の養育について、日ごろ関係性構築のために配慮しているのはどのようなことですか。  
(自由記述)
2. 現在の担当児との関係性構築について、あなたが日ごろ難しく感じることはどのようなことでしょうか。  
(自由記述)
3. ご自身の休日に、担当児・又は養育児とともに買い物に出るなど、勤務時間外で行動を共にする機会がありますか (該当項目に○、自由記述)
- ① ある (ごくたまにある ときどきある 頻繁にある)  
↓  
「ある」場合にはどのような外出先が多いのでしょうか  
( )
- ② ない

## 【B票6枚目】

4. 養育についての他の職員との話し合いは、どのようなものがありますか?  
カンファレンス、一人一人の自立支援計画の作成や振り返り、計画の修正などに要する時間についてお聞かせください。(該当するものに○、( )に数字を記入してください。複数回答可)
- ① 保育(養育)中の日常的な会話で行う ( )分~( )分程度 毎日・時々・たまに  
② ユニット(クラス・グループ)ミーティング ( )分~( )分程度・月/週( )回  
③ 年齢別会議 ( )分~( )分程度 月/週( )回  
④ ユニットリーダー会議 ( )分~( )分程度 月/週( )回  
⑤ 担当者間ミーティング ( )分~( )分程度 月/週( )回  
⑥ 職員会議、 ( )分~( )分程度 月/週( )回  
⑦ カンファレンス ( )分~( )分程度 月/週( )回  
⑧ その他( ) ( )分~( )分程度 月/週( )回
5. 担当児の家庭復帰又は措置変更に際して、あなたが担当児に向けてしていることはありますか。
- ① ある →具体的にはどのようなことをしているのでしょうか。  
( )
- ② ない
6. 退所した児童が、その後、乳児院と関わる機会がありますか
- ① ある (ごくたまにある ・ときどきある ・頻繁にある )  
↓  
1. 「ある」場合には、どのような機会でしょうか。(複数回答可)  
a 施設で定期的に再会できる機会を設けている(ホームカミングデー・施設間の交流会 など)  
b 退所児が希望すれば、いつでも受け入れている  
c 個人的に会うことができる  
d その他 ( )
- ② ない

## 【B票7枚目】

- IV. 家庭的処遇について
1. 養育担当者として、担当児の生活が「家庭的」と感じるのはどのようなところでしょうか
- ・物的環境面:  
・人的環境面:  
・その他:
2. 養育担当者として、担当児たちの生活を「家庭的養育」に近づけることが難しく思うところはどうなところでしょうか
- ・物的環境面:  
・人的環境面:  
・その他:
3. 養育担当者として、家庭的養育を保障するために、今後、改善していくことを望むところなどがあれば、お教えください。
- 質問 B は以上となります。ご協力ありがとうございました。

## 3. まとめと今後の課題

質問紙 A 及び B 票についての回答を業者委託により整理し、質問紙調査の結果内容が概ね明らかとなったのは 2023 年 3 月であった。また B 票については一部の施設から「勤務状況」、「養育担当者の職務内容」、「デイリープログラム」など各乳児院で実際に使用されている資料が提出された。質問紙記入による回答とともにこれらの資料に基づいて、当初の計画の通り 3 つの観点から以下のように研究をまとめる予定としている。観点 1「乳児院を取り巻く関係機関との連携および退所後の支援」においては、乳児院が関係する諸機関との連携の実際について具体的な把握をすすめ、また退所後の支援については、担当時の家庭復帰や措置変更の際に子どもにどのように伝え配慮しながら進めていくのか、職員はそこにどのような課題を見出しているのかを明らかにしていく。子どもを中心に置いたときのアフターケアの在りようを模索したい。観点 2「子どもと担当職員との関係性構築」からは、養育担当者から語られる言葉や思いを丁寧に掬い上げながら、養育担当者が日々抱える矛盾のなかで、子どもとどのように関

わっているのか、何に苦慮し、何に配慮しているのかを明らかにしていくことが必要だと考えられる。子どもを中心に置くことに変わりはないが、職員の側から焦点を当て、現場を共にするもの同士がその事実や主観を共有しなおすことによって乳児のケアにおける支え合いの一助となることをめざしていきたい。観点3「乳児院における職員の職務内容について」では、先行研究の少ない乳児院職員の職務内容と生活の実態を整理することにより、職員の職務内容が利用児の家庭的養育を第一義として組み立てられているという視点から各施設で行われている養育に関する具体的な工夫を明らかにしたい。また同時に、現実問題として離職者が多く、人手不足が慢性的な状態となっている現状の乳児院の要因を見出すこととしたい。

養育担当者が疲弊することなく利用児の家庭的養育を実践していける方法を探り、その知見を回

答者である乳児院職員に還元することができるよう分析と考察をすすめたい。

#### 4. この助成による発表論文等

本研究における質問紙調査の結果内容が明らかとなったのが2023年3月であるため、今回の助成による研究成果の発表等については今後、日本保育学会およびその他隣接領域の関係諸学会における学会発表・論文掲載など、複数の機会を活用することを予定している。

#### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成(K2204)「乳児院における『家庭的養育』実践に関する調査—子ども・職員・関係機関」を受けたものです。